



G-Tech Alfa Romeo 4C 280

4Cコンプリート、いよいよ発進!
日独タッグのイタリアン。

PARTS LIST

アルファ Romeo 4C パフォーマンスキット	19万8000円
アコースティックサウンド・エキゾーストシステム	ask
HRE Classic 303M (17×8.0J~22×13.0J)	20万200円~27万7200円

※すべて税抜き価格。



このG-Tech 4C 280を皮切りに、今夏にはタービン変更などを伴い最高出力335psにまで高めた仕様が登場する。さらにエンジンスワップによる500ps仕様も計画されている。

見た目はノーマルだがパフォーマンスキットにより最高出力280psへ。機能部品を一切交換することなくとも、300ps弱までは充分に対応する「強さ」が宿ると彼らは見ている。



オリジナル排気システムによりテールがシングルからダブルへ。内側のパイプには全天候型のスピーカーが埋め込まれ排気音質を操る。これは車内側のスイッチでオンオフ可能だ。



ホイールはHREのクラシックシリーズ「303M」。新色パウダーコートのプローズングリーン(艶消し)が足もとを引き立てる。◎8.5J×18、◎9.5J×19インチが装着される。

実際、この4Cは日本主導での開発が進む。現状を見るとサブコンの存在としてブーストアップを担うパフォーマンススキットの装着と、それに見合うような排気システムの最適化。新たな試みとしては、スピーカ

ーをマフラーに介在させて排気音と混ぜ合わせることで、エキゾーストノートをより官能的な音質へと持っていくアコースティックサウンド・エキゾーストシステムが備わった。結果として最高出力はノーマル比で40psアップとなる280psへ。それを受けて「Gtech 4C 280」と名付けられている。

数値的な上げ幅は40psだが、車両重量1100kgを実現したカーボンバスタブシャシーを持つミッドシップ構造の車体にとって効果は絶大だ。シャシーが勝ちすぎず、かといってエンジンが強すぎない絶妙な塩梅がある。スロットルレスポンスは自然で扱いやすく、3000rpm付近から明確な過給トルクが立ち上がる。

と、最小限の仕事で最大限の効果を得るといって、Gtech哲学が貫かれた一台にすっかり惚れ込んだ。さらに外観にも華やかさを加えるとしたら、このように華やかで遊び心に富んだHRE(303M)を入りたい。ぐっと色気を出しつつ、モータースポーツで技術力を高めてきた老舗鍛造メーカーの底力によって、軽やかに駆け抜ける4Cをかつちりと受け止めてくれるはずだ。

「最近、度肝を抜かされるコンプリートカーや質実剛健な機能パーツでフィアット系の世界を盛り上げているが、もちろんアルファ Romeoにも抜かりはない。ドイツ生まれにしてルーフやノヴェティックの思想が受け継がれるGtechは、アルファ製スーパースポーツと言われる4Cを染め上げた。」

「Gtechは、ここ日本を第2の祖国と言わんばかりに、本国同様の開発および供給体制を整えてきた。その証拠に、彼らがいま挑戦を継続する唯一のモータースポーツ活動は、日本のスーパー耐久である。TUV認証を始めその品質が証明される本国製作のコンプリートカーだけがGtechではないのである。」

「Gtechは、ここ日本を第2の祖国と言わんばかりに、本国同様の開発および供給体制を整えてきた。その証拠に、彼らがいま挑戦を継続する唯一のモータースポーツ活動は、日本のスーパー耐久である。TUV認証を始めその品質が証明される本国製作のコンプリートカーだけがGtechではないのである。」